SPORTS　FOR　ALL　～　スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に　～

Monthly Report

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS
Vol.196　/　2022 .AUG
（月1回発行）

アイリスオーヤマ（株）と女子硬式野球部の支援に関する協定を締結

後列左から髙橋仁 学長、佐野仁 朴沢学園常務理事、入澤裕樹 女子硬式野球部監督、朴澤泰治 理事長、アイリスオーヤマ株式会社 社長室 室長　浅野秀一様、柴田町 町長　滝口茂 様、白石市 市長　山田裕一 様、角田市 市長　黒須貫 様
前列左から千葉真希さん（子ども運動教育学科1年）廣田美憂さん（体育学科1年）

本学園とアイリスオーヤマ株式会社は8月24日（水）、仙台大学LC棟に於いて「仙台大学女子硬式野球部の支援に関する協定」を結びました。

この協定は、アイリスオーヤマ株式会社に活動支援をいただきながら、女子硬式野球部の振興とスポーツによる地域の活性化に貢献することを主な目的としています。

調印式には、女子硬式野球部の創設に際して、行政の立場からご支援いただく、柴田町の滝口茂町長、白石市の山田裕一市長、角田市の黒須貫市長のご臨席を賜り、アイリスオーヤマ株式会社の浅野秀一社長室長から「女子野球を志す方々に夢や希望を与える、笑顔をもたらしてくれるようなチーム作りや活動に取り組んでいただくとともに、交流大会の開催等を通して、この地域での宿泊や食事等利用により、地域が活性化するための一助ができることにうれしく思っている」との言葉をいただき、朴澤理事長が「アイリスオーヤマ株式会社様には、これまでもスポーツ・健康に係る教育環境の整備など、相互に密接な関係を持たせてきていただいていますが、女子スポーツの新しい分野で、地域社会の活性化を踏まえた人材育成ということの協働が図れるということに、大きく期待を膨らませています」と感謝の言葉を述べました。

ご臨席いただいた3市町長から期待の言葉を頂戴した後、アイリスオーヤマ株式会社と3市町のロゴが入ったユニフォームの披露として、入部を希望している在学生の千葉真希さん（子ども運動教育学科1年）と廣田美憂さん（体育学科1年）が登壇しました。

入澤裕樹監督は「1年目から大会に出場して、いい成績を残すことが目標ですが、地域社会の活性化に向けて「産官学」連携による女子野球クラブチーム交流大会を開催するように取り組み、柴田町、白石市、角田市の仙南地区の球場および宿泊地を利用することにより、女子野球の振興だけでなく交流人口の増加を図り、スポーツによる地域創生に貢献していきたい」と決意を述べました。

〈 目　次 〉

・アイリスオーヤマ（株）と女子硬式野球部の支援に関する協定を締結	1
・令和4年度海浜実習報告	2
・クリケット研修会兼贈呈式（教職員対象）への参加報告 ・「日本文化体験～会津～」を開催！	3
・スポーツ情報マスメディア学科Podcast「メディアでアソバナイト」 ・岩澤、跳馬の王者へ／体操インカレ／団体、女子6位へ躍進　男子悔しい7位	4
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.52	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課
直通　0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

アイリスオーヤマ株式会社と3市町のロゴが入ったユニフォームを披露した千葉真希さん（子ども運動教育学科1年）と廣田美憂さん（体育学科1年）

令和4年度海浜実習報告

7月15日（金）～18日（月・海の日）の3泊4日の日程で、山形県鶴岡市・由良海水浴場で海浜実習を実施しました。3年ぶりの同地での実施であることに加え、宿泊を伴う運営となったことから、新型コロナウイルス感染症等対策を含め、様々配慮を要する状況でしたが、関係各位の手厚いサポートもあり、大きな事故無く終えられたことに感謝申し上げます。

天候についても、初日に現地で実習生が到着した時こそ雨が降っていましたが、午後に講習を始めるころには雨も上がり、その後は終始快晴そのもので、大変恵まれました。晴れ渡る青空の下、実習生たちは各々の泳力に応じて水泳技能向上に努めました。

実習に先駆け、出発前日の7月14日の昼休みに、プール横の浴室棟前にて実習生及び補助学生の抗原検査を実施し、対象者全員の「陰性」を確認しました。

いざ海を目の前にした実習生の表情は、緊張と不安がやや勝りながらも、コロナ禍で各種活動が大幅に制限を受けてきたこの2年間のことを思えば、期待とやる気が入り混じる、そんな複雑な様子でした。従前は、5月から約2カ月半の期間、実技「水泳」でしっかりと練習を積んで海に挑めたところ、コロナ禍以降はプールでの活動時間が大幅に減少しており、実習生の練習量が圧倒的に不足している状況で海に連れて行かなければならないことが、実習主任としては気がかりでしたが、班付きの先生方の細やかな声掛けと指導により、その不安は2日目の午前にして完全に払拭されました。当初の泳力こそ、例年の学生に比べれば未熟と感じましたが、その分、やる気は十分で、講習回数を重ねるごとに水泳技能が格段に向上する様子に、大変頼もしく感じました。本実習は、いわゆる「バブル方式」で実施したことから、海上での練習はもとより、大学から実習地までのバス移動、民宿・旅館での生活に至るまで、全て班ごとに固定しました。そのことにより、従来通りの全員をひとまとまりとする大遠泳はかないませんでしたが、反対に、班ごとの「つながり」はより強固なものとなったようで、3日目午前の遠泳本番では、それぞれの班で互いに励まし合う言葉が飛び交い、全ての班が白山島の先の沖へ出て湾の外を泳いで力強く帰ってきました。実習生は、眼前に広がる一面海の景色に感嘆した様子で、ある学生は『マジこの景色感動する！一生に一度のこの景色を目に焼き付けとく！！』と言いながら泳ぐ様子を見て嬉しく思いました。終わってみれば１時間40分、一人の脱落者もなく、全員が遠泳を完泳しました。

3日目午後はもう一つのメインプログラムである着衣泳を実施しました。「堤防で釣りをしていた際に誤って落水した状況」を想定し、実習生は長そで長ズボンを着用して、白山港の灯台から飛び込んで実習本部のテントを目指しました。飛び込む直前に足がすくむ実習生もいましたが、皆覚悟を決めて着衣で落下（ジャンプ）し、岸まで泳いで戻り、その後は、水中脱衣の難しさや着ていた衣服で浮き具を作る体験を通して水辺の安全について考えてもらいました。着衣状態で落水するとどういう感覚が体を襲うのか？泳いで移動することはどれほど困難なのか？もし、泳ぐことが必要となった場合、どのような泳法が適切なのか？体力消耗を抑制し浮いて救助を待つにはどうすれば良いか？など、実習生はそれぞれの状況に応じて水とうまく付き合う方法について学びを深めてくれたことと思います。

髙橋仁学長におかれましては、ご多忙中のところ、遠方よりご足労頂き、実習生を激励いただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。また、本実習運営とその実現にご尽力いただきました全ての皆様へ、この場をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援頂けますよう重ねてお願い申し上げます。

＜准教授　渡邉 泰典＞

クリケット研修会兼贈呈式（教職員対象）への参加報告

8月5日（金）亘理町立荒浜中学校で、クリケット研修会兼贈呈式が実施されました。これは、「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する協定」に基づく亘理町・日本クリケット協会・本学の連携による取り組みの一環です（詳細は本学紀要vol.53,NO.2:99-112,2022参照）。

当日は、日本クリケット協会・ジュニア普及コーディネーターの宮地直実氏が講師となり、本学クリケット部の女子部員及びコーチ4名（日本代表候補選手）がアシスタントとして参加し、筆者も部長として参加しました。
贈呈式では、亘理町奥野教育長・宮地氏・筆者が参列し、日本クリケット協会から亘理町内全ての小・中学校にクリケット用具が贈呈されました。贈呈された用具はジュニア育成に用いられているクリケット用具の簡易版であり、入門用として活用されているものです。

クリケット研修会には各小・中学校の体育教員20名並びに奥野教育長、生涯学習課職員が参加しました。前半はクリケットを知るためのミニレクチャーが教室で実施され、後半は体育館で実技研修が行われました。参加者はクリケットの魅力や面白さを非常に感じた様子で、実技では皆が汗だくになりながらプレーし大変盛り上がった研修会となりました。今後も同様の研修会等を開催していき、亘理町の活性化、クリケットの普及に寄与できれば幸いです。

＜教授　仲野　隆士＞

教室でのクリケットレクチャー

モデルを務めた岩崎さん　（体育3年）

全小・中学校に贈呈された用具

贈呈式での記念撮影

簡易ゲームのルール説明場面

サポートした部員４名

「日本文化体験～会津～」を開催！

7月30日(土)に学生支援センターが主催する留学生を対象とした日本文化体験を福島県で行いました。

日本文化体験は、留学生が日本の文化に触れる機会を作るとともに、留学生同士の親睦を深めることを目的として開催しており、今回は留学生7名の参加がありました。

白虎隊の学び舎であった会津藩校 日新館では、会津地方の民芸品である赤ベコの絵付を体験し、会津のシンボルとなっている鶴ヶ城では様々な歴史資料や天守閣等を見学して、歴史と文化に触れてもらいました。また、福島県の名産品である旬の桃狩りを体験し、全員でもぎたての桃に舌鼓を打ちました。留学生たちは、真剣に日本の歴史や文化を楽しみながら学んでいました。

コロナ禍で外出する機会も少なかったため、留学生からは「日本の歴史や文化を知ることができた」、「地元の食べ物を食べることができて、とても楽しい一日でした」などの声が聞かれました。
学生支援センターでは、今後も感染防止対策をしっかりとったうえで、留学生に日本の文化に触れてもらう機会を創出していく予定です。

＜学生支援センター＞

スポーツ情報マスメディア学科Podcast「メディアでアソバナイト」

「メディアでアソバナイト」

令和4年6月3日からスタートした、スポーツ情報サポート研究会に所属する学生によるPodcast配信が8月19日に第13回目を迎えました。メインパーソナリティーを務めるのは、スポーツ情報マスメディア学科2年の渡辺大地さんです。

研究会に所属する学生と学生生活に関するトークをしたり、アナリストとして部活動に所属している先輩にお話を伺ったりして、学内外のスポーツに関する旬な話題をお届けしています。ぎこちない中にも熱量たっぷりの放送を毎週金曜日にお届けしていますので、Podcast配信「メディアでアソバナイト」をぜひ一度お聴きください。

＜スポーツ情報サポート研究会＞

「メディアでアソバナイト」メインパーソナリティーの渡辺大地さん

岩澤、跳馬の王者へ／体操インカレ／団体、女子6位へ躍進　男子悔しい7位

体操の全日本学生選手権大会2022が8月19～22日、三重県の四日市総合体育館で行われ、本学は女子が1部団体総合で6位に躍進、一方、男子は同種目7位の成績でした。個人は男子種目別の跳馬で岩澤将英（体育3年）が見事頂点に立ちました。「跳馬のスペシャリスト」の誕生です。

本学体操陣は全国の強豪校がひしめく1部団体で戦っています。今大会、女子チームのメンバーは躍動あふれる演技で気を吐き総合点237.658を獲得。前回8位という順位を一気に二つ押し上げました。ここ数年は低迷気味だっただけに、今後につながる奮闘です。

これに対し男子はやや精彩を欠きました。3大会前3位、 前々回・前回とも5位という実績からすると今回の7位は決して満足ゆくものではありません。ただ、総合点392.725は5位大阪体育大学の得点と比べると差がわずか0.499。鈴木良太監督は「悔しい。どうしてこういう結果になったのか、課題を洗い出したい」と反省を踏まえ、「次回に向け部員一丸となって巻き返す」と語りました。

仙台大学のインカレ出場メンバー。右上から時計回りに女子団体・個人、男子個人、女子個人、男子団体・個人

跳馬を制した岩澤は得点15.066と、ただ一人15点台をマーク。「ロペス」と呼ばれる後方伸身2回宙返り3回ひねりの大技で着地もピタリと決めました。会心の演技について「めちゃめちゃ気持ちよかった。大会2週間前には左肩を痛めて思うような練習ができなかったが、最後の最後でチームのために何とか力になれた」と振り返りました。

このほかの上位成績は次の通り。名前の後の数字は演技得点。

【男子】

▹個人総合　⑧吉田求（体育1年）81.366▹種目別あん馬　⑥吉田13.900⑦佐々木郁哉（体育2年）13.800▹跳馬　③佐々木14.900▹鉄棒　⑧吉田13.633

＜体操競技部＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol.52

助手　今野　桜

仙台大学附属明成高校では、7月下旬から約1ヶ月間の夏休みがありました。今年の夏は早い梅雨明けから始まり、その後雨の日が多く続きました。8月に入ってからは気温が上がり、湿度も高い日が多くなりました。高い気温に湿度がプラスされると発汗による体温調節が難しくなるので、どうしても熱中症になる人が増えてしまいます。川平ATルームでも、毎年熱中症による体調不良者の対応をしていますが、今年も数名の熱中症対応を行いました。

私たちは、本格的に暑くなり熱中症の危険度が増す前に、特定研究指定部活動を対象に熱中症講習会を行っています。そのため、講習会を受けた生徒達は基礎的な知識は備わっているのですが、全ての部活動で熱中症対策を完璧には実施できていないのが現状です。あらかじめ体を冷やすための氷を用意しておく、水分や休息時間の確保、外であれば日陰で風通しの良い休憩場所の確保、帽子を被る、など熱中症を予防するためにできる事は沢山あります。チーム全体で取り組むこともあれば、日頃の体調や栄養の管理、服装に注意するなど個人で心がけてできる事もあります。私たちが対応した熱中症のケースで多いのが、朝食をとっていなかったり、長時間直射日光に当たりながら運動をしていたり、といったケースです。熱中症は予防すれば防げるものです。講習会や日頃の声掛けなどで、少しずつ熱中症の件数や重症度にも改善が見られているように感じます。9～10月にかけてそれぞれの部活動で大会を控えているので、生徒一人一人がベストなコンディションで大会に臨めるようにスタッフ一同協力してサポートしていきたいと思います。

明仙フィールドのWBGT測定後、結果を記入しています

～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園（明治12年開設）の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探求することに継承されてきた。

なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能力を鍛えた心身ともに健康である人間をつくることであり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科（修士課程）も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみることが好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、運動栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・ スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 （リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください）

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（仙台大学学則別表第一）

■3つのポリシー ①学部 ②大学院
③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科
⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画